

安藤裕(あんどうひろし)



昭和 40 年 3 月 28 日生 44 歳
神奈川県出身 横浜市在住
慶應義塾大学経済学部卒 税理士
家族:妻、長男(高 1)長女(中 2)
<http://andouhiroshi.jp/>
ando@andouhiroshi.jp

【日本の閉塞感を打破するには】

予備選挙に参加する機会を与えていただき、高知県連の皆様には本当に感謝しております。

私は、いまの日本全体を覆う閉塞感を打破するには、次の三点を解決する必要があると考えています。

① 自主憲法の制定

現在の憲法は、占領政策の一環として制定されたものであり、独立国であれば当然認められるべき自衛のための軍備でさえ憲法違反が疑われるという嘆かわしいことになっています。

国を守るという崇高な任務を果たしている自衛隊をきちんとした自衛軍として組織し、国民から敬愛される存在にしなくてはなりません。

もちろん戦争はしないが、独立を守るためには最低限の軍備は必要です。この議論を避けて通るかぎり、真の独立はありえません。

自分の身は自分で守る。あたりまえのことではありませんか。

② 誇り高い日本人の育成

子どもから大人まで染まってしまった東京裁判史観、「日本は大きな過ちをおかした悪の国であった」という歴史観から脱却しなくてはなりません。日本の子どもたちに覇気がない最大の原因は、この歴史観にあります。

世界第二位の経済規模をもつ先進国でありながら、神話の時代から連綿として続く天皇をいただき、国が成立してから実に二千年以上の歴史と伝統と文化をもつのが我が国日本です。

すごいことだと思いませんか。

この美しい国土と言葉をもつ日本を自分たちの力で守り抜き、次世代の子どもたちに受け継ぐ。

日本人がこういう気概を持つことができれば日本という国は世界から尊敬され、今後も繁栄していくことでしょう。

③ 家族法と相続の見直し(中小企業と地方経済復活のカギ)

地方経済の復活なくして日本の繁栄はありえません。

地方が衰退していった原因も、戦後の占領政策のひとつにあります。家族制度の解体です。

家督相続制度は、最小の経営単位である家族経営を安定させ維持していくうえで非常に効果のある制度でした。戸主という一家の経営責任者から次の世代の戸主へ先祖伝来の家土地をはじめ全財産を引き継ぐことによって家族経営のための資産が不用意に分散してしまふのを防ぎ、先祖に感謝しながら家族の結束と経済的な安定を図っていたのです。

この仕組みを現在でも受け入れられるように復活させる必要があるでしょう。また、家族経営を安定させ、経済を活性化させるためには相続税と贈与税は廃止すべきです。

【公共事業について】

資本主義の当然の帰結として、資本力のあるところに金が集まって行くのはしかたのないことです。したがって、資本力があり金が集まる都会から地方に金を還流させる仕組みは考えなくてはならないでしょう。

公共事業など政治の力でできることと、民間の力でできることがあります。国と地方、政と官と民、力を合わせて地域を発展させる方策を実行する必要があります。

【最後に】

私は民主党政権になってしまったことに大変な危機感を感じています。

民主党は仮面をかぶった社会主義政党です。民主党政権が続けば、いつの間にか気がつかないうちに日本は社会主義国家になってしまいます。

この国難から日本を救うには自民党を中心とした良質の保守勢力が結集して、仮面をかぶった革命勢力に対抗しなくてはなりません。

私は、いまの日本が「国民の生活が第一」などという甘い言葉に惑わされて無血の社会主義革命に飲み込まれるのを身を呈して阻止する覚悟です。

維新の英雄・坂本竜馬を生んだこの高知の地から、いま再び日本を変革しましょう。

どうか私に力をお貸しください。よろしく願いいたします。